

# 社会保障費 抑制見直し

## 雇用対策など充実

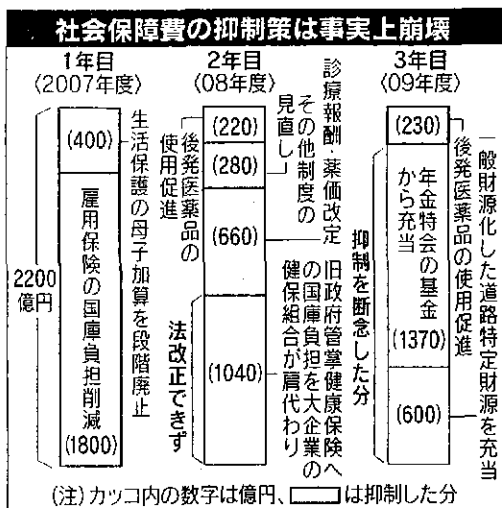
### 「骨太09」 概算要求基準で歯止め

政府は二〇一〇年度予算編成の指針となる「骨太方針二〇〇九」で、小泉政権以来続けてきた社会保障費の抑制方針を見直す方針だ。年金や医療費の伸びを毎年度二千二百億円抑える計画を掲げてきたが、「骨太〇九」では雇用や貧困対策を充実し、消費税など将来の増税幅を広げて財源を確保する路線への転換を打ち出す。公共事業関係費などの削減は継続する。

社会保障費の抑制は、地方の基礎的財政収支の「骨太〇六」が定めた五年間の歳出削減計画に基づく。少子高齢化で伸び続ける医療費などを計一・一兆円抑制。予算の膨張に歯止めをかけ、国・

一般財源化した道路特定財源を充当「後発医薬品の使用促進」

「骨太〇九」では社会保険の充実を打ち出す一方で、相応分の税負担を求める「中福祉・中負担」の考え方を明示する方針。与謝野氏は基礎的財政収支の黒字化目標は降ろさない意向も示しており、社会保障を除く予算項目の削減方針は継続する考えだ。



「骨太〇六」以降、二千二百億円抑制を達成できたのは〇七年度予算のみ。〇八年度は制度改正のための法改正ができ

## 「11年度黒字化できず」 基礎収支 財務相、初めて明言



同時に「どこかで（歳入・歳出の）フロアの目標をつくらないといけない」と説明。基礎的財政収支の赤字半減時期や国債発行残高の国内総生産（GDP）に対する比率の引き下げなど、新たな目標を検討していることを明らかにした。新目標は「骨太方針〇九」に盛り込む方針だ。

参院予算委で答弁する与謝野財務相（20日）